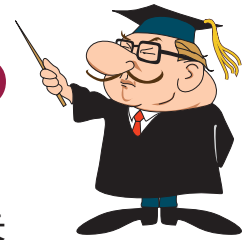




船旅のすすめ



(財) 地方公務員等ライフプラン協会 今野 和夫

豪

華客船での船旅、皆さんはどのような印象が思い浮かびますか。

「船酔い」「暇を持てあます」「贅沢」「食事の心配」「病気になった場合どうするの」etc. ご心配はいりません。一つの小さな都市が動いているようなものです。診察室もあり船内ドクターもいます。船酔いしたときは酔い止めもいただけますし食事の心配も必要ありません、下手をしたらウェイトコントロールに気を遣わざるを得なくなります。

何故、船旅について書く気になったかといいますと、公務員OBの方々が乗船客として結構多いということを船会社の方から伺ったことに始まります。当協会でもライフプランセミナー等で生涯生活設計をはじめ、退職後の充実したゆとりある人生を送るための方策をアピールしていますが、いざ実践となるとなかなかなのではないでしょうか。それを思い起こさせる一方策として船旅をお薦めいたします。

船旅において、カルチャー教室に参加するもよし、船室やプールサイドデッキ、ライブラリーでノンビリと読書するもよし、自分の生活時間に合わせ一日を過ごしながら、自分の人生を振り返り、リタイア後の人生をリセットする良い出会いなのかも知れません。私の船旅の夢は、團伊玖磨著の「パイプのけむり」の一節に、赤道付近を航行中にプールサイドデッキのドリンクバーでジントニック飲む(?)という下りが印象に残り、いつか自分もと思うようになったことです。豪華客船との出会いは、市町村職員の研修施設として、研修船を建造する計画が持ち上がり、兵庫県主催の「洋上大学」の実態調査を兼ね委員と一緒に当時就航したばかりの「おりえんとびいなす号」に、シンガポールからパース迄の1週間の乗船でした。

その後も何度かクルージングを楽しんでいますが、本を何冊か持参しても結局は読み切ることはできません。一日毎のアクティビティは非常に充実し、暇なのは客室等の清掃時間となる9時からお昼まで、それ以外は講演会をはじめとするカルチャー教室（マジック、ダンス、カジノ等）等の催しが時間を余すところ無くセッティングされ、施設面ではプールとジャグジー、ジムナジムで体を動かし、シアターでは最新映画の上映などリラックスできるものが多数あり、暇を持てあますことはありません。全部に参加するととなると寧ろ忙しい日々が続くこととなります。

赤道通過時には、航海の安全を祈るための赤道祭が催され、仮装した船員が海神ポセイドンに安全航海の扉を開けてもらうための鍵をプールに投げ入れたり、乗船客と一緒にゲームを楽しみ、船長からは署名入りの赤道通過証が交付されます。当然の如く念願であったプールサイドデッキでのカクテルを飲む下りも体験しました。

船旅ではいろんな発見があります。赤道直下における自身の影の短さに驚かされ、舷窓からは無数のトビウオが水面を飛ぶ姿、イルカの併走、鯨の群れの潮吹きなどを観たり、夜は南十字星や無数に輝く星々、延々と続く西オーストラリアの切り立つ海岸線、夜は明かりがボツンと見えても、その後数時間は暗闇が続く長大な地に人口が少ないというのが洋上から見ていてもはっきりと判ります。船内情報は、行事内容やディナー時のドレスコード等の連絡用として毎日発行される情報紙やブリッジ・レポートで位置、天候、平均スピードなどが判ります。また、パソコンルームではインターネットやメールで随時情報が取り出せるようになっています。

ロングクルーズはどうも苦手という方は、先ず入門編としてワンナイトクルーズやショートクルーズなどを体験することをお薦めします。船旅から得られる様々な実感がライフプランの一助になるのではないのでしょうか。

